



一般社団法人ヒトリハ

第2期 年次報告書

(2021年2月1日～2022年1月31日)

一般社団法人 Hito Reha

メール

info@hitoreha.com

Web サイト

<https://hitoreha.com/>

Tel

090-2889-2014

〒986-0011

宮城県石巻市湊字立石 64 番地

第2期 沿革

- 2021年1月16日～3月13日
復興庁 復興・創生インターン 石巻①ブロック 3名の学生を受入、2か月間の活動を提供
- 2021年2月10日
災害×ローカルキャリア 地域と学ぶ専門職 外部講演講師：横山翼 30名程度の専門職参加
- 2021年3月3日
ローカルベンチャーラボ OBOG インタビュー「地域への見方が変わり、この事業にとって大事なことは何かに気づかされました。」 掲載
- 2021年3月18日
主たる事務所を移転。
- 2021年4月1日～
石巻・女川自立支援協議会 就労支援部会 運営メンバー参画
- 2021年5月26日
Social Impact for Japan2020 社会課題解決中マップ「障がいを抱える方とその家族誰も取り残さない地域を創る」 掲載
- 2021年6月5日
鹿妻のいろどりマルシェ初開催 来場者数 150名程度
- 2021年6月10日
いしのまき SDGs パートナー 登録・加盟
- 2021年6月12日
河北新報石巻かほく 「鹿妻のいろどりマルシェ」で交流 障害者、住民と絆強く 掲載
- 2021年7月17日
石巻ユニバーサルビーチ 2021開催 放課後等デイサービス「つなぐ石巻」と連携し開催
- 2021年8月23日～12月23日
Piece 冊子プロジェクト第1段 2人の障がい児者を育児する母親と伴走型プロジェクト開始
- 2021年8月25日
9月4日開催の鹿妻のいろどりマルシェ 宮城県の緊急事態宣言により中止
- 2021年9月25日～2022年2月13日
SOCIAL INNOVATION Accelerator (SIA) 2021プログラムに参加
- 2021年10月9日～13日
イオンモール石巻で「市民公益活動とNPOセンターの20年の歩み」に鹿妻のいろどりマルシェの活動をパネル展示
- 2021年10月29日～12月5日
「GoodMoning」にてクラウドファンディング「Piece 障がい児者と共に歩む家族が本当に伝えたかった想いを届けたい」を開始
- 2021年12月5日
クラウドファンディング 55名から30万1500円のご支援を頂き終了
- 2021年12月11日
鹿妻のいろどりマルシェ 2回目開催 来場者数 120名程度
- 2021年12月18日
クラウドファンディング リターン商品 「Piece あなたの個性と共に歩み続ける」全支援者へ送付
- 2021年12月23日
Piece 冊子プロジェクト第1段 終了
- 2022年1月14日
助成金 みやぎスマイル基金 助成金活用報告会



経営理念

誰もが仲間や地域と共にいるどりの暮らしと寛容な社会を実現する

法人経営の在り方と事業 Mission



【相談事業×コミュニティビジネス】

全国 障がい児者を育児する家族のオンラインカフェ



● 顧客の特定

広義：障がい児者を育児する家族

狭義：30代～40代の障がい児者を育児する母親で、育児の不安、心配、悩みが出始める子どもの3、4歳頃、または小学校低学年の時期にあたいする時期。

● 顧客のサービス利用手順

1. 無料相談：メール、zoom、対面でも可能（60分程度）
2. CAMPFIRE コミュニティサービスの申込
3. 非公開コミュニティ Slack の参加
4. サービス利用開始

当サービスを2021年12月にリリース。

リリースと同月12月に渡波プレーパーク（NPO こども∞感パニー）の子育て会に参加し、直接相談を受け始めた。その子育て会に参加していた1人の母親がサービスを利用し始めることとなる。

実績：2021年12月 利用者0名 離脱者0名

2022年1月 利用者1名 離脱者0名

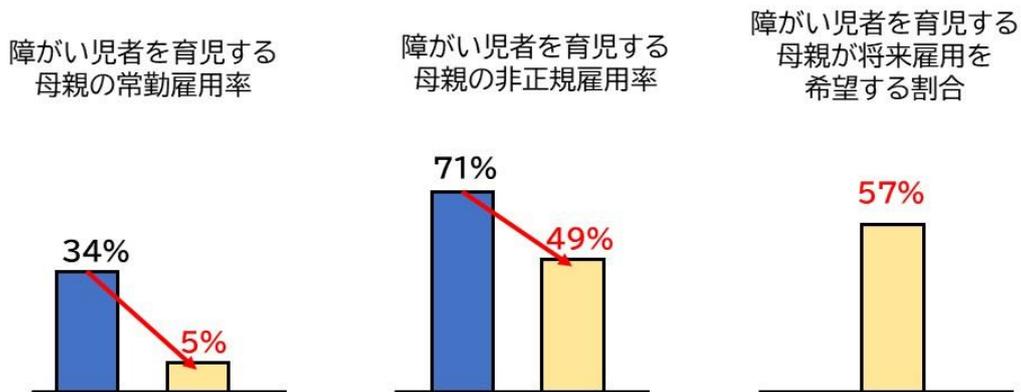
【障害福祉業界の課題の特定】

「働きたくても働けない」障がい児者を育児する母親の存在

日本全国の推定

「働きたくても働けない」障がい児者を育児する母親

約17万人



参考

- ・ Ejiri.K. and Matsuzawa.A (2017) 障害児の母親の就労に関連する要因. International Journal of Developmental Disabilities.
- ・ 正規職員として働く障害児の母親における仕事と子育ての葛藤. 春木裕美, 大阪府立大買い大学院生. 社会問題研究・第67巻(2018年2)57-73

障がい児者を育児する母親の常勤雇用率は2017年時点でわずか5%となっている（健常児の母親の常勤雇用率は34%）。また、非正規雇用は健常児の育児する母親が71%に対し、障がい児者の育児する母親が49%となっている。上記、雇用されていない障がい児者を育児する母親の51%の母親の皆さんは、実は『働きたい（雇用されていない者の内、57%は今後の雇用を希望されている）』と思っている方が半数以上いる。日本全国を見た場合、このように『働きたくても働けていない母親の皆さんは約17万人（推定）』いる。

雇用されていない母親の皆さんは、雇用されている方と比べ社会との接点が少なく、友人・知人とも障がいにもつわる育児のことが気軽に話せる状況ではない方が多いです。誰に話してよいかわからず、とはいえ育児の具体的なアドバイスがほしいと思っても、よき専門職や支援者に恵まれる環境にいるとは限りません。

また、障がい児者を育児する家族の皆さんへのヒアリングやインタビューを通じて、実際に障がい児者を支援する方からの差別を受けてきた現状も聴かれています。実際の声として、小学校の先生から「通常学級でも問題ないように思えますよ」、相談センターの支援者から「周囲の子どもと馴染めないのは母親の子育てに問題があるじゃないですか」というケースがありました。このような事例を受け、もちろん支援者の皆さんに適切なお声かけが必要だと認識した一方で、障がい児者を育児する家族が抱く“本音”を適切に発信できていないことも「差別の言動」を引き起こす一つの要因として示唆しています。

【課題解決に向けた新規事業開発】

プロジェクトベースで障がい児者を育児する母親の「雇用のきっかけづくり」と「障がいに関連する差別の軽減・解消」を同時に担える事業を開発した。つまり、障がい児者を育児する母親が育児と仕事の両立が実現でき、かつ障がいに関連する差別の軽減・解消ができる啓蒙・啓発活動を担える仕組みを整えることを目指した。



【プロジェクト】

生業から生まれる想いを紡ぐプロジェクト（後に Piece 冊子プロジェクトと名付けた）

実施期間：2021年8月23日～12月23日（4か月間）

方法：Hito Reha の伴走型プロジェクト

内容：障がい児者を育児する家族の想いを綴った冊子をつくる

資金調達：クラウドファンディング（2021年10月29日～12月5日）

対象者：「働きたくても働いていない」障がい児者を育児する母親2名

報酬：10万円

【スロージャーナリズムの体現と普遍的な冊子を構築するデザイン】

上記の課題解決のために「読者」と「社会」にメッセージが伝わるのが最重要であると考え、「スロージャーナリズム」の概念を基本として、読者にとっては「手触り感、何度でも読み返せる、その都度読むと違う感情が生まれる」ことを目指していく。社会全体にとって、どの時代においても普遍的に読み続けられる書物として付加価値を高めていくことを目指した。

【クラウドファンディング】

HitoReha
一般社団法人ヒトリア

**『Piece』 障がい児者と共に歩む家族が
本当に伝えたかった想いを届けたい**

あなたの
個性と共に
歩み続ける

1
2021.12.1

ぼっほー
一般社団法人HitoReha
代表理事 横山翼 (理学療法士・編集担当)

2021年10月29日～12月5日まで「クラウドファンディングサイト GoodMoning」にてクラウドファンディングを実施し、本活動の背景、課題、活動についてSNSで発信し、55名の支援者から301500円の支援を頂き、合計70冊をお届けした。

【第2弾開催に向けた募集・面談とネットショップ開設】

Piece 冊子プロジェクト第2弾

期間：2022年2月3日～4月28日

方法：HitoRehaの伴走型プロジェクト

内容：障がい児者を育児する家族の想いを綴った冊子をつくる

資金調達：赤い羽根福祉基金（2021年10月29日～12月5日）

対象者：「働きたくても働いていない」障がい児者を育児する母親2名

報酬：7万円

2021年8月～12月の活動を通じて、働きたくても働けない障がい児者を育児する母親の実態および育児と仕事の両立に向けた支援の在り方を蓄積した。加えて、障がい児者を育児する家族の「想いを形式化した冊子」により啓蒙・啓発活動への一歩となった。活動に参画した2名のうち1名は当法人で活動を継続するに至り、新たな雇用に向けて動きも見え始めている。

2022年2月開始のPiece2冊目の募集が1月27日に終了し、新たな参画者が2名追加となり3名+横山の4人体制で2022年2月から開始となる。

ライフスタイル事業

鹿妻のいろどりマルシェ



宮城県石巻市鹿妻地域において、地域と連携・協働し、鹿妻地域の賑わいと障害福祉に関連する事業所、障がい児者が日常から地域と関わる機会を生み出すためにマルシェを開催した。

- 鹿妻地域と連携・協働した団体

鹿妻地域：自治会、社会福祉協議会、鹿妻小学校、渡波小学校、渡波中学校、

WW I (渡波わっしょ委員会)

障害福祉事業所：石巻市で運営されている就労支援事業所、放課後等デイサービス

- 開催実績

6月5日（開催）：出店・ワークショップは8出店、来場者延べ約150名

9月4日（緊急事態宣言により中止）：

8月25日時点で政府が宮城県に対し「緊急事態宣言」を要請したことを受け内部で協議した上で中止とした。

12月11日（開催）：出店・ワークショップは7出店、来場者延べ約130名

- 市民・国民への公表

10月9日～13日までイオンモール石巻で「市民公益活動とNPOセンターの20年の歩み」の際にパネル展示をし、市民の皆さんへの活動紹介・報告をした。

2022年1月14日には、オンラインにて「鹿妻のいろどりマルシェ助成事業報告会」を実施致しました。

- 成果

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、鹿妻地域の自治会行事、賑わいが軒並み中止となっていたため、鹿妻地域の賑わいに貢献。その中でも活動を中止していた「かづま地域こども食堂」の再開に貢献した。加えて、地域の新たな交流の場をひらき、障がい児者が地域と協働しながら地域内でインクルーシブ教育のきっかけをつくること、鹿妻地域の住民と企業・商店・民間事業者が生産・消費を生み出し地域経済に貢献していく場を築けたこと。

- 教訓

マルシェ開催中にアンケート調査を実施し、「普段から障がい児者と接する機会がない方が約7割」、普段から障がい児者に接している方に「障がい者差別行動が鹿妻地域内で見かけたことがあるか」が回答者全員であった。このことから、日常から障がい児者が鹿妻地域で交流する場がないこと、交流するだけでなく、地域での役割を生み出せないことを示唆しました。また、障がい児者に対する差別行動が存在し、マルシェ活動を通じたインクルーシブ教育が差別行動を軽減できるよう努める。

- 今後の展望・活動の方向性

今回の助成金により活動を開始出来たことで、今後の展望は2つ生まれました。

1つ目は、2回の開催を通じて鹿妻地域内の高齢者も出店希望があり、住民参加型により地域課題の解決（多世代交流の場がない、地域の行事に無関心など）に向けても活動の幅を展開できる可能性があります。

2つ目は、障がい児者がマルシェの活動を通じて住民と協働すること取り組みを生み出し、誰とでも衣食住を共にでき、共生・共存できる地域社会として新たな文化を生み出していくことを目指していくことです。

鹿妻のいどりマルシェに活用した助成金使途報告書

(1) 収入の部（助成の対象となった事業の分のみ）

確保した資金内容	金額（円）	備考
みやぎスマイル基金助成金	200000 円	
合計	200000 円	

(2) 支出の部（助成の対象となった事業の分のみ）

費目	内容	予算額	実支出額	助成金からの支出額
タープ テント	タープテント	50000 円	47840 円	47840 円
イベント チラシ 印刷費	イベントチラシ	45000 円	42504 円	42504 円
イベント当 日案内パ ンフ レット	パンフレット	35000 円	45424 円	44799 円
開催施設 賃借料	開催施設賃借料	20000 円	22600 円	22600 円
その他活 動に必要 な費用	会場飾りつけ フラッグガーランド	50000 円	5500 円	5500 円
	ワークショップ用 針葉樹合板		2206 円	2206 円
	ワークショップ用 アクリルガッシュ		1551 円	1551 円
	講師謝礼金		33000 円	33000 円
合計		200000 円	200625 円	200000 円

法人の社会的責務と発信

いしのまき SDGs パートナー：2021年6月10日 登録・加盟



メディア掲載

新聞掲載	2回（いしのまき NPO 日和、石巻かほく）
雑誌等掲載	2回（web 記事、冊子記事）
その他	

地域への見方が変わり、この事業にとって大事なことは何かに気づかされました。

「鹿妻のいどりマルシェ」で交流 障害者、住民と絆強く 石巻

2021年06月12日 11:46

障害がある人と地域のつながりを深めようと、石巻市鹿妻南2丁目の「コミュニティハウス〜心の家」で5日、「鹿妻のいどりマルシェ」が開かれた。地元商店と福祉事業者がそれぞれに出店したほか、ワークショップなどを通して交流した。

障害のある人やその家族らのコミュニティ形成と社会参加を支援する一般社団法人「HitoReha（ヒトリハ）」＝同市湊＝が主催した。

地域からは総菜店、生花店が出店。就労支援B型事業所「べてるの園」は水産加工品などを販売し、利用者4人が張り切って店頭に立った。

ヒトリハの横山興代表理事（30）は「3月に事務所を石巻市中央から湊に移し、地域の員として企画した。多くの来場者があり、うれしい」と手応えを話す。今後3カ月に1度のペースで継続していく考えだ。



地域の商店（右）と就労支援事業所のブースが並んだ会場



町中で開かれたイベントワークショップ

未来への道筋ある課題解決・起業家のアクションデータベース

社会課題解決中MAP

最新情報 | イベント情報 | 2020マガジン | 研究開発 | 企業や団体の社会貢献へ
Social Impact for 2020 and beyond

TOP | アクション検索 | アクション掲載 | 本サイトについて | FAQ

障がいを抱える方とその家族を誰も取り残さない地域を創る

実行中 7

一般社団法人HitoReha

更新日: 2021.05.26



一般社団法人HitoRehaは2020年2月より、宮城県石巻市にてライフスタイル事業とオンラインコミュニティ事業の2軸で、障がいを抱える方とその家族のサポート事業を行っています。創業メンバー4名のうち3名は理学療法士、1名は作業療法士として医療に従事してきた経緯があります。

障がいを抱える方とその家族は、社会に出ていくことの障壁を一緒に乗り越えたいと思っています。ですが、日々の忙しさに加え、私たちに何ができるかわからないこともあります。でも、一人ではなく、みんなとつながることその痛みが解決できたり、新しい希望ややりたい事が浮かんでくることもあります。障がい年齢・性別・立場の違いを超えて、楽しく、笑顔になれる可能性がここにはあります。私たちは障がいを抱える方とその家族を誰も取り残さない地域を創ります。

ソーシャルワーク | こども | 就労支援
キーワード | 生活支援 | 居場所づくり | 学習支援 | 子ども
子育て | 白り支援 | 福祉



HitoReha

一般社団法人ヒトリハ

誇りを持ち、共に愉しむ